

2009年4月入職

く どう ま さ ひ こ
工 藤 正 彦



「知技心」をバランス良く底上げしたい

心だけに偏らず、技術や知識も身につける

学生時代、看護における重要なポイントとして先生から教えられたのが、「知技心」のバランスを保つことです。知識・技術・心の3つを磨くことが大切であり、どれか1つが欠けていてもいけないことを学びました。当時はそこまで深く理解していなかったのですが、今はその意味が身に染みて分かります。思いやりエキスパートの研修で自分の手技を見てもらったとき、見事に癖を言い当てられました。私は緊張する場面になると、表情が硬くなって汗が出てくるんです。まだまだ心に、余裕が足りないのでしょうか。今まではコミュニケーションに重点を置いた看護を行ってきたのですが、それでは患者さまに本当の安心感を与えることが出来ません。つまりこれまでは、「知技心」の中で心に比重が偏っていたわけです。

今後は3つのバランスを取ることを意識しながら、知識や技術をより磨けるように、まわりのスタッフから学べる場所はどんどん吸収していきたいと思っています。幸いにも、素晴らしいお手本となる人がすぐ近くにいるんです。同じクリニックにいる思いやりエキスパートに選ばれている上司は、本当にすごい。全てにおいて別格なんです。私も思いやりエキスパートに選ばれたことで、他のクリニックで勤務を行ったときにも、「出来て当然」と思われる立場になります。「知技心」のバランスを意識して自己研鑽しながら、どんなときでも動じない落ち着きを身につけていきたいと思っています。

「病気を見ずして病人を見よ」



最近、「患者さまを主体とした治療を実現できているのか」を、意識することが増えています。透析治療では、決められた治療を患者さまに提供していくのが通例ですが、果たしてそれだけでいいのかと疑問に感じていて。中にはその治療方針が本意ではないのに、治療を受け入れている患者さまも多いように思えるのです。私が卒業した看護学校の理念に「病気を見ずして病人を見よ」という言葉があるのですが、今の私にはすごく響きます。患者さまと色々な話を交わす中で、個々の生活スタイルや心情を汲み取り、お互いの意向がマッチする点を探していく。その上で治療を提供していくことが必要なのではないかと感じています。医療従事者として自分にどれだけのことをできるのかを、これからのキャリアで追求していきたいですね。

最近、「患者さまを主体とした治療を実現できているのか」を、意識することが増えています。透析治療では、決められた治療を患者さまに提供していくのが通例ですが、果たしてそれだけでいいのかと疑問に感じていて。中にはその治療方針が本意ではないのに、治療を受け入れている患者さまも多いように思えるのです。私が卒業した看護学校の理念に「病気を見ずして病人を見よ」という言葉があるのですが、今の私にはすごく響きます。患者さまと色々な話を交わす中で、個々の生活スタイルや心情を汲み取り、お互いの意向がマッチする点を探していく。その上で治療を提供していくことが必要なのではないかと感じています。医療従事者として自分にどれだけのことをできるのかを、これからのキャリアで追求していきたいですね。



いつでも どこでも どんな時でも

思いやり行動

を実践する事が出来る看護師も
目指します！

工藤 正彦